事業を終えて

「赤い羽根、第５回外国にルーツがある人々への支援活動応援」事業を９月末で終え、ここに事業報告をいたします。

「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成　第５回」報告書

～尾張北部、市町を超えた外国人・子ども支援団体のネットワークの拡大と強化～

事業内容

① 外国人支援の団体が、情報やノウハウの共有を目指しての、地域を超えたネットワーク会議を開催。

ネットワーク会議

犬山市、江南市、小牧市、一宮市、名古屋市、丹羽郡大口町、三重県四日市市、兵庫県豊岡市、茨木県常総市の国際交流協会・外国人支援・こども支援団体等 11 団体が、オンラインで、6 回の会議を行った。

1 回目：本事業の説明と、各団体の主な事業の紹介 11/26

2 回目：各団体の主な事業の紹介と　1/28

研修会について（どんな研修を受けたいか？を議論）

3 回目：研修会の内容の議論

4 回目：研修会を終えて

5 回目：文科省研修の振り返りと、事例「言葉のものさし」について　9/30

6 回目：本事業の振り返りと今後にむけて。（ネットワークの継続をどうするか？）9/29

② 日本語が理解できない外国人住民に対し、行政や子どもの教育・医療機関等への外出の際に、寄り添い同行できる通訳の派遣。

希少言語の通訳に困っている団体間で、通訳の相互派遣。

③ 研修会の実施。ネットワーク会議等での議論の上、子どもの日本語支援に対しての研修会を 2 回開催し、その中で、多くの団体が希望している発達凸凹の子の支援も視野に入れることができた。

④ 相談会の実施。イベントの中でも定期的に相談会を開き、子育てや教育に悩む人たちには、相談のハードルを下げ、相談できる環境をと整えた。

⑤ その他、翻訳等。団体の困りごとへのアドバイス等も実施。

活動日数

計 103 日　①ネットワーク会議　6 回、②寄り添い通訳 33 回　、③研修 2 回、④相談会　36 回　＋5 回（犬山市社会福祉協議会と協力）、⑤その他　翻訳　9 件　コーディネート業務日　他　12 日

各事業での成果と課題

① ネットワーク会議

犬山市、江南市、小牧市、一宮市、名古屋市、丹羽郡大口町、三重県四日市市、兵庫県豊岡市、茨木県常総市の国際交流協会・外国人支援・こども支援団体等 11 団体が、オンラインで、6 回の会議を行った。

1 回目：本事業の説明と、各団体の主な事業の紹介 11/26

2 回目：各団体の主な事業の紹介と　1/28

研修会について（どんな研修を受けたいか？を議論）3/

3 回目：研修会の内容の議論

4 回目：研修会を終えて　7/30

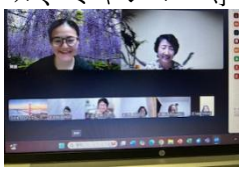
5 回目：文科省研修「言葉のものさし」について　9/29、19 時～20 時 30 分

6 回目：相談会での事例共有。本事業の振り返りと今後にむけて。9/29，20 時 30 分～22 時

各団体、それぞれ事業に忙しい中、毎回 10 人以上が参加し、熱心な議論や情報交換を行えた。日本語の問題ばかりでなく、様々な問題を抱える外国ルーツの子どもの支援についての各団体の工夫や創意を披露し合い、ともに学ぶ事が出来たと、感じています。

その中で、研修に対する意見交換が活発に行われ、発達凸凹の子どもの研修会開催につながった。

諸問題を解決するのは、やはり通訳が必須をいう点で、しかもベトナム語やネパール、ミャンマー等の子が増えており、希少言語の通訳が不足しているのが、浮彫になった。



② 寄り添い通訳　　33 回

寄り添い通訳では、発達に関する相談への同行、学校や保育園への懇談会に同行などの希望が目立った。通訳が常駐の施設がほとんどなく、大病院を除いて、ほぼ通訳がおいてないので病状を伝えたり、日頃の健康状態を伝えられるの（医療通訳ではない）が、助かったと利用者の弁。ちいさな子を持つママは、そばに一緒にいてくれるだけでも、とても有難がってもらえた。

ただ、利用希望の保護者からの申し込みが、急な場合もあり、マッチングができなかった例も、4 件あり、とても残念だった。

チラシ配布の会場や場所が、あまり多くなかったと反省している。今後は自団体での発信にも、もっと力を入れ、各言語版でも発信し、外国人からの直接の受付も、できるようにしたい。

また、ネットワーク団体からの募集に頼り、自団体の SNS での発信が不足した感があった。また、近郊のネットワーク団体からの依頼がほとんどで、少し遠隔団体同士の派遣が、ほとんどなかった。今後、ネットワーク会議での広報や、情報共有にもっと力を入れたい。

何語の通訳？　年代別？

③ 研修会の実施

第 1 回：4 月 26 日（土）「発達凸凹の子どものための日本語支援」研修会（ハイブリット開催）

講師/川崎直子【愛知産業大学教授】　参加者　対面 24 人、オンライン 7 人【団体 8】

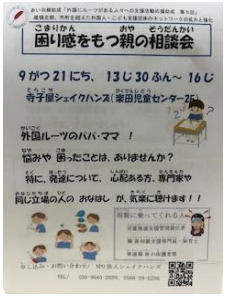
・川崎教授執筆の「ことばたんけんたい」を使って、発達凸凹の子への超具体的な指導の仕方、教材の利用の方法・工夫を教えていただく。「低学年の子、就学前の子の指導にもすぐに使える！」と、好評だった。

第 2 回：研修「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための」
言葉の発達と習得のものさし」～文化庁研修振り返りから～　9/28　19 時～20 時
講師：NPO 法人可児市国際交流協会　近藤里美氏　（オンライン）

8/16 に大阪大学で開催された研修の中のプログラムをモデル実施した可児市国際交流協会の事例の紹介。特に「言葉の発達と習得のものさし」についての説明と、実践例。文科省の実践ガイドについて。

④ 相談会　　41 回　（犬山・江南・大口町にて）

多文化共生イベントや子育て支援との併設も含めて、全体で、計 41 回の相談会を行った。相談で多かったのは、子どもの発達と離婚問題と経済的困窮。すぐに解決できないが、2 度 3 度と聴いてもらっている間に、道が見えてくる例が 3 件ほどあった。解決に至らくても、本人が安心できる時間になりつつあるのが、良い事だと感じた。ネットワーク内で、共有できるケースもあり、また、犬山では、社会福祉協議会相談員が、業務時間外に協力してくれ、生活場面相談のような時間をつくってく出さり、継続してアセスメントにつなげる事ができた。託児付きの相談の場を設けたことは、ママ達にとても喜んでもらえた。



⑤ 翻訳　　9 件

⑥ その他、コーディネート業務日　他　12 日

問題と今後の取り組み

尾張北部地域での取り組みは、ほぼ達成し、特に通訳派遣や相談では、成果が上がった感はあるが、全体的には、予定していた通訳・翻訳派遣、相談会が、ネットワーク全体で共有できず、50%の達成率になってしまった。（ネットワーク会議での議論も盛りあがったが、実際に相談事業や通訳派遣にまで、至らなかった）

会議だけでなく、実際の協働イベントなどにつなげ、そこで関係性を作りながら、需要を伸ばしていけるとよいのかも！通訳と相談の場は今後も必要になるし、実際子ども支援の空白の隣町も、立ち上げを考えるタイミングになってきている。そこをも巻き込みながら、日本語教育だけでなく、＋子ども支援に、様々な団体の知見を合わせて、取り組んでいきたい。

外国人日本人関係なく、より多くの人・団体を巻き込みながら、地域でのネットワークが充実し、緩やかなに組みながら、より広域で、子どもの日本語支援×子育て支援が広がることを目指します。そのためには、社会福祉協議会はじめ、様々な団体と協働ができる事を望みます。

赤い羽根助成「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成　第５回」
尾張北部、市町を超えた外国人・子ども支援団体のネットワーク拡大と強化

寄付者へのメッセージ

この度は、第５回「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」をいただき、誠にありがとうございました。

本事業では、外国ルーツの子ども支援をベースに、不足しがちな通訳・翻訳者の共有を、一地域では不足する言語、または希少言語の通訳・翻訳者の掘り起こしも図りながら、ネットワークを広げてまいりました。

寄り添い通訳と相談の場のおかげで、尾張北部地域では、困難を抱えている子ども達や言葉がわからない保護者が、かなり問題を乗り越えることができました。

一方で、遠各地での連携は、会議での情報共有にとどまっていますが、今後も、このネットワークを強くして、子どもや保護者により、寄り添っていきたいと存じます。

今後も見守りと同時に、よりご協力を　よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。